

360° frontier



ドローンと360°カメラを活用した独創的な映像コンテンツによって地域の魅力発信と活性化に取り組んでいます。



関西大学
総合情報学部

360°カメラを搭載したドローン

活動の概要

目的	自然や歴史・文化、まちの賑わい等の地域の魅力発信
連携メンバーおよび役割	大阪府高槻市…撮影対象のピックアップ、撮影協力 株式会社大広…情報発信に関する戦略の策定 ブルーイノベーション株式会社…無人航空機（ドローン）操作に関するレクチャー 関西大学総合情報学部教授 堀雅洋 / 同学部教授 林武文 / 同学部准教授 井浦崇 …撮影、映像コンテンツ作成、関係者間の意見調整
活動地域	大阪府高槻市内
活動期間	2015年6月～2016年10月

連携の経緯

総合情報学部では関西大学創立130周年記念を迎えるにあたり、キャンパスを置く高槻市とのこれまでの連携を一層高めるきっかけ作りとなる事業を模索していた。そこに同市からの、市の魅力発信に大学の知見を活かしたいとの要望を受け、プロモーション動画制作が決定。ドローンと360°動画撮影可能なカメラを併用した独創的なコンテンツの制作が始まった。プロジェクトの要でもある情報発信の戦略策定やドローン操作については専門性の高い企業の参画を得るなど、万全の連携体制を構築した。

解決すべき課題

- (1) 高槻市の魅力の効果的かつ可視的なPR



ドローン撮影当日の様子

360°カメラによる撮影画像

大学の役割

「360° frontier」は、総合情報学部の強みであるITやメディアアートを活用して、市内の特色ある風景を効果的に発信することを目指す取り組みである。

高槻市は、35万人以上の人口を擁する中核市だが、市街地内外に、美しい自然景観が残る「摂津峡」、1,000匹超のこいのぼりを掲揚する「こいのぼりフェスタ1000」、大王陵とも言われる「今城塚古墳」など、魅力ある自然や文化が点在する。関西大学の3研究室はドローン撮影およびその素材を用いたメディアアート制作を担当。さらに、それに付随する、情報発信戦略の策定やドローンの安全な運用管理を、市や企業との調整の下で行った。

こうした作業を経て完成した映像作品の数々を総括して「Folklore Sphere（地域の魅力再発見と伝承）」と題し、「高槻アート博覧会2015」をはじめ、オーストリア・リンツ市にて行われる世界最高峰のメディアアートの祭典「ARS ELECTRONICA FESTIVAL 2015」、アジア最新のCGとインタラクティブ技術が集結する展示会「シーグラフアジア2015」等における関西大学のブースにて展示。また、広報ツールとして市に無償提供するなど、現在は作品群の発信手法について検討を重ねている。

成果

- (1) 映像作品の完成
- (2) 映像作品群の展示と市への提供

今後の展望

- (1) 3研究室における各種プロジェクトのフィードバックから、IT操作やメディアアート制作の技術をさらに向上させること

研究者の紹介



総合情報学部 教授
堀 雅洋
(ほり まさひろ)

専門は知識情報学。様々な特性のユーザに対して情報のアクセス容易性を保証するための評価手法とデザイン原理を明らかにすることを目指している。



総合情報学部 教授
林 武文
(はやし たけふみ)

専門は視覚認知情報処理。視覚を中心とした人間の情報処理メカニズムを解明し、ヒューマンインタフェースにおける情報の提示方法を明らかにすることを目的に研究を行っている。



総合情報学部 准教授
井浦 崇
(いورا たかし)

専門はメディア・アート。デジタルメディアにおける映像と音楽の新しい創造性をテーマに、視覚と聴覚の相互作用による表現効果を研究。美術家、音楽家として作品制作も行っている。



グランフロント大阪での展示の様子